



平成27年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年6月2日

上場取引所 東

上場会社名 ピジョン株式会社

コード番号 7956 URL <http://www.pigeon.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 茂

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画本部長 (氏名) 松永 勉 TEL 03-3661-4188

四半期報告書提出予定日 平成26年6月6日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切り捨て)

1. 平成27年1月期第1四半期の連結業績（平成26年2月1日～平成26年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年1月期第1四半期	18,859	11.6	2,683	40.3	2,659	21.6	1,772	33.5
26年1月期第1四半期	16,895	17.8	1,913	35.9	2,187	36.1	1,328	26.4

(注) 包括利益 27年1月期第1四半期 871百万円 (△68.0%) 26年1月期第1四半期 2,727百万円 (54.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年1月期第1四半期	44.35	—
26年1月期第1四半期	33.18	—

(注) 当社は、平成25年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

1株当たり四半期純利益につきましては、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年1月期第1四半期	61,832	38,122	60.3
26年1月期	57,955	39,981	67.5

(参考) 自己資本 27年1月期第1四半期 37,282百万円 26年1月期 39,124百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年1月期	—	66.00	—	55.00	—
27年1月期	—	—	—	—	—
27年1月期(予想)	—	45.00	—	45.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

当社は、平成25年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

3. 連結業績予想（平成26年2月1日～平成27年1月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	84,500	9.1	11,600	11.9	11,800	7.3	7,300	4.5	182.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 当第1四半期連結会計期間より減価償却費方法の変更を行っており、「有形固定資産の減価償却方法の変更」に該当しています。詳細は、添付資料6ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照下さい。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年1月期1Q	40,551,162株	26年1月期	40,551,162株
② 期末自己株式数	27年1月期1Q	629,672株	26年1月期	525,652株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年1月期1Q	39,966,223株	26年1月期1Q	40,026,704株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については4ページ「（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	10
(3) 継続企業の前提に関する注記	11
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(5) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の金融政策・経済対策を背景とした企業収益の改善や設備投資の増加など、引き続き緩やかな景気回復の流れが続いております。一方で、海外では新興国における景気減速や欧州での政治不安をはじめとする景気の先行きに対する不確実性が存在し、また消費税増税後の個人消費鈍化など、国内景気の下押しリスクが依然として存在しております。

このような状況の中、当社グループは第5次中期経営計画（平成27年1月期～平成29年1月期）を策定し、スローガンを“Pursuing world class business excellence, think globally, plan agilely, and implement locally.”と掲げ、その初年度として新たなスタートを切っております。また事業方針として、以下「ピジョン (Vision) 2016」を定め、グループ事業の拡大と経営品質の向上を目指しております。

<ピジョン2016>

- i) ブランド力強化 (Global Number One の育児用品メーカー)
- ii) 継続的な事業発展に向けた経営体制の強化
- iii) キャッシュフロー重視による経営品質の向上
- iv) グローバルな人材育成と人事制度構築、社員の活躍促進
- v) 企業価値の一層の向上

当第1四半期連結累計期間におきましては、上記事業方針及び各事業・機能戦略に取り組んでまいりました結果、売上高は、引き続き中国事業を中心とした海外での順調な業績拡大などにより、188億59百万円（前年同期比11.6%増）となりました。利益面におきましては、増収に加えて事業拡大に伴う生産拠点の稼動向上などにより、売上原価率が前年同期比で約0.9ポイント改善したことなどで、営業利益は26億83百万円（前年同期比40.3%増）、経常利益は26億59百万円（前年同期比21.6%増）、四半期純利益は17億72百万円（前年同期比33.5%増）と、それぞれ前年同期実績を上回りました。

従来、当社グループの報告セグメントは「国内ベビー・ママ事業」、「子育て支援事業」、「ヘルスケア・介護事業」及び「海外事業」となっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「海外事業」から「中国事業」を分離し、計5セグメントでの報告となっております。各区分における概況は以下のとおりです。

なお、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

「国内ベビー・ママ事業」

当事業の売上高は、60億57百万円（前年同期比1.8%増）となりました。セグメント利益は、マーケティング費用の見直しなどにより、販売費及び一般管理費が減少したこともあり、前年同期実績を上回る10億50百万円（前年同期比33.7%増）となりました。

当事業におきましては、赤ちゃんの快適にこだわった両対面式ベビーカー「Mahalo laule' a（マハロ ラウレア）」、母乳で育てたいママのストレスを軽減し、母乳育児を快適にする「さく乳器電動」「さく乳器電動 First Class」、赤ちゃんの胎脂に近い保湿成分を使用した「ピジョン ベビースキンケアシリーズ」などを発売しております。また、ダイレクト・コミュニケーションの一環であるイベントとして、出産前の方を対象とした「プレママクラス」、妊娠準備期の方を対象とした「妊トレ女子会」などを当第1四半期連結累計期間内において3回開催し、合計で約240名の方にご参加いただきました。妊娠・出産・育児シーンの女性を応援する「クチコミ コミュニティサイト」である「ピジョンインフォ」におきましても、トップページのリニューアルを実施しており、今後もさらにお客様にお使いいただきやすくなるよう、改善を進めてまいります。

「子育て支援事業」

当事業の売上高は17億8百万円（前年同期比1.8%増）となりました。セグメント利益は依然として保育士不足による採用費用増などがあるものの、売上総利益の改善などにより、前年同期実績を上回る35百万円（前年同期比51.6%増）となりました。なお、事業所内保育施設につきましては2箇所の新規受託を開始し、サービス内容の質的向上を図りながら、堅調に売上を拡大しております。また幼児教育施設においては、4月より導入している数学的体験プログラム「Mathプログラム」がご好評をいただいております。

「ヘルスケア・介護事業」

当事業の売上高は引き続き消耗商品における競争激化が進む中、前年同期実績を上回る17億円86百万円（前年同期比8.0%増）となりました。セグメント利益は、売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費の効率的な活用に努め、1億23百万円（前年同期実績44.9%増）となっております。

当事業におきましては、2月に従来品の吸水機能はそのままに、さらに履き心地を改善した尿もれ用吸水機能付き下着「リクープ かるる」を発売しております。引き続き、重点カテゴリに絞った研究の深耕により、競争優位性のある新商品投入を目指し、また施設ルート中心の営業活動強化など施策実行を徹底してまいります。

「海外事業」

当事業の売上高は51億43百万円（前年同期比15.9%増）となりました。セグメント利益は、11億9百万円（前年同期比19.2%増）となりました。インドにおきましては、引き続き当社ブランドの市場浸透を目指して積極的な営業・マーケティング活動を展開しております。今後は、販売・流通体制のさらなる強化を目指すとともに、現地工場建設など商品供給体制の整備を進めてまいります。また北米におきましては、本年1月からの哺乳びんの本格的な販売を開始しており、引き続き商品カテゴリーの拡充、組織体制の強化などによるさらなる事業拡大を目指しております。

「中国事業」

当事業の売上高は48億9百万円（前年同期比32.8%増）となりました。セグメント利益は、事業の積極的展開に伴うマーケティング活動などにより販売費及び一般管理費が増加したものの、13億28百万円（前年同期比39.3%増）となりました。当事業におきましては、マーケティング、販促普及活動の継続的な強化による哺乳びん乳首カテゴリー等の順調な伸長により、売上高、セグメント利益ともに前年実績を上回りました。また、昨年の7月に発売したベビー用紙おむつは、当初の想定を下回るものの、徐々に売り上げが伸びてきており、今後のさらなる販売拡大を目指しております。

「その他」

当事業の売上高はOEM商品の受注が増加し、3億42百万円（前年同期比19.8%増）、セグメント利益は、51百万円（前年同期比52.7%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は618億32百万円となり、前連結会計年度末と比べ38億77百万円の増加となりました。流動資産は36億13百万円の増加、固定資産は2億63百万円の増加となりました。

流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金が25億41百万円、商品及び製品が5億43百万円増加したことによるものです。

固定資産の増加の主な要因は、機械装置及び運搬具が2億35百万円減少したものの建設仮勘定が6億97百万円増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は237億10百万円となり、前連結会計年度末と比べ57億36百万円の増加となりました。流動負債は7億16百万円の増加、固定負債は50億19百万円の増加となりました。

流動負債の増加の主な要因は、未払法人税等が4億13百万円減少したものの支払手形及び買掛金が2億88百万円、その他が4億28百万円増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は381億22百万円となり、前連結会計年度末と比べ18億58百万円減少となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

「第5次中期経営計画（平成27年1月期～平成29年1月期）」におきましては、スローガンを“Pursuing world class business excellence, think globally, plan agilely, and implement locally.”と掲げております。さらなる事業運営体制の整備、強化を図りつつ、新たに策定した各事業戦略およびその基盤となる機能戦略に基づく諸施策を確実に実行し、経営品質の向上に取り組んでまいります。特に、引き続き成長分野として位置づけている海外事業に関しましては、中国、北米等を中心とした既存市場での事業拡大、深耕に加えて、新規市場への積極的参入を図ることにより、業績のさらなる拡大を目指してまいります。また以下「ピジョン (Vision) 2016」ならびに「事業及び機能戦略」を定め、グループ事業の拡大と経営品質の向上を目指してまいります。当連結会計年度は、この第5次中期経営計画の初年度として、確実な計画達成に向けて邁進いたします。

<ビジョン2016>

- i) ブランド力強化 (Global Number One の育児用品メーカー)
- ii) 継続的な事業発展に向けた経営体制の強化
- iii) キャッシュフロー重視による経営品質の向上
- iv) グローバルな人材育成と人事制度構築、社員の活躍促進
- v) 企業価値の一層の向上

■事業および機能戦略の概要

<海外事業>

- ・重点市場：中長期視点も含めた市場ポテンシャルから重点国を設定し市場を開拓、深耕
- ・重点カテゴリー：ピジョンの「強み」を活かせるカテゴリーに注力
(ほ乳びん・乳首、さく乳器、おしゃぶり、スキンケア、母乳パッド)
- ・病産院活動：病産院活動モデルの水平展開とブランド力強化とのシナジー

①中国市場

*事業拡大

- ・既存カテゴリーの成長と紙おむつ等新規商品での成長
- *事業基盤の強化
- ・事業拡大に対応した設備投資
- ・生産ラインの自動化等によるコスト抑制と安定供給
- ・事業拡大に対応した組織体制のさらなる強化

②欧米市場

*母乳育児支援企業としてのブランド力強化

- ・ほ乳器：母乳実感NEXTの欧米投入
- ・「さく乳→保存→授乳」の育児シーンのトータルサポート強化
- ・病産院活動の強化

*中南米における事業拡大および新規市場開拓

③アジア・中近東市場

- *重点5カテゴリー（ほ乳びん・乳首、さく乳器、おしゃぶり、スキンケア、母乳パッド）を核として成長
- *ピジョンブランドのさらなる強化・浸透の加速
- *インド：現地生産工場の稼働、マーケティング機能の強化

<国内事業>

ベビー・ママ事業における既存事業の収益性の向上、大型事業の確実な成長、ヘルスケア・介護事業における介護施設ルート中心の営業体制の強化や競争優位性のある商品の上市など、既存事業分野の事業成長と収益性の向上を目指す。

①国内ベビー・ママ事業

- *既存事業の収益性の向上
- *大型商品事業の確立と新規参入カテゴリーの検討

②ヘルスケア・介護事業

- *介護施設ルートでの営業強化
- *競争優位性のある商品の上市による施設及び既存ルート双方での成長
- *介護サービス品質の一層の向上

③子育て支援事業

- * 保育品質の向上と着実な事業成長
- * 質の高い保育人材の育成

<機能戦略>

①研究・開発

- * 研究「ベビー理論」の深耕と顧客指向の徹底による商品開発力の向上
- * 研究・企画・開発機能の見直しによるグローバル開発体制の構築と強化

②品質管理

- * 各生産拠点における品質管理機能強化
- * PIGEON PRODUCTIVE MANAGEMENT (PPM) 体制の確立

③生産・調達・物流

- * 効率的な生産・調達・物流体制の実現によるコストの削減
- * Global Supply Chain Management体制の確立

④グローバル人事制度

- * 海外事業の更なる拡大に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成および人事制度の構築

⑤グローバル本社

- * コーポレートセンター機能の強化
 - ・ グループ戦略の企画・推進機能強化
 - ・ コンプライアンス、社会的責任遂行機能強化

なお、当社グループの通期業績見込みにつきましては、平成26年3月3日発表の業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

有形固定資産の減価償却方法の変更

従来、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法について定率法（ただし、平成10年4月1日以降の取得に係る建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用していましたが、当連結会計年度より、すべての有形固定資産について定額法に変更しています。

この変更は、当連結会計年度からはじまる第5次中期経営計画において、グローバルな事業展開がこれまで以上に加速し、海外における設備投資の大幅な増加が見込まれることから、グループの設備投資環境の変化を契機に、グループの会計方針の統一と期間損益の適正化の観点から有形固定資産の減価償却の方法について再度検討したことによるものです。その結果、当社及び国内連結子会社の有形固定資産は、耐用年数内で安定的に稼働しており、また、当社製品からも安定的な収益獲得が見込まれることから、有形固定資産の減価償却方法として定額法を採用することが、費用配分の観点から合理的であり、経営実態をより適切に反映できると判断致しました。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ32,051千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,102,606	15,643,792
受取手形及び売掛金	12,569,111	12,743,097
商品及び製品	5,350,773	5,894,568
仕掛品	281,547	317,034
原材料及び貯蔵品	2,420,080	2,569,319
その他	1,670,255	1,861,697
貸倒引当金	△30,988	△52,145
流動資産合計	35,363,386	38,977,364
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,238,559	6,075,324
土地	6,080,256	6,072,369
その他(純額)	6,704,646	7,192,120
有形固定資産合計	19,023,463	19,339,814
無形固定資産		
のれん	441,108	388,834
その他	1,000,222	992,593
無形固定資産合計	1,441,331	1,381,427
投資その他の資産		
その他	2,170,610	2,177,747
貸倒引当金	△43,424	△43,414
投資その他の資産合計	2,127,185	2,134,333
固定資産合計	22,591,980	22,855,575
資産合計	57,955,367	61,832,940
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,518,251	4,807,153
短期借入金	395,212	514,600
1年内返済予定の長期借入金	1,004,953	1,000,000
未払法人税等	1,155,862	742,669
賞与引当金	782,653	1,048,049
返品調整引当金	57,318	90,177
その他	4,904,682	5,333,139
流動負債合計	12,818,934	13,535,789
固定負債		
長期借入金	2,011,503	6,992,484
退職給付引当金	287,276	290,806
役員退職慰労引当金	323,894	335,114
その他	2,532,144	2,555,848
固定負債合計	5,154,818	10,174,253
負債合計	17,973,753	23,710,043

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,199,597	5,199,597
資本剰余金	5,180,246	5,180,246
利益剰余金	26,929,960	26,501,111
自己株式	△455,960	△940,213
株主資本合計	36,853,843	35,940,742
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,520	30,291
為替換算調整勘定	2,240,472	1,311,501
その他の包括利益累計額合計	2,270,992	1,341,793
少数株主持分	856,777	840,361
純資産合計	39,981,614	38,122,897
負債純資産合計	57,955,367	61,832,940

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年4月30日)
売上高	16,895,717	18,859,156
売上原価	9,532,677	10,446,251
売上総利益	7,363,039	8,412,904
返品調整引当金戻入額	46,037	56,671
返品調整引当金繰入額	57,599	90,089
差引売上総利益	7,351,478	8,379,486
販売費及び一般管理費	5,438,060	5,695,747
営業利益	1,913,417	2,683,738
営業外収益		
受取利息	26,027	35,038
持分法による投資利益	18,795	—
為替差益	248,794	—
その他	54,429	52,853
営業外収益合計	348,046	87,892
営業外費用		
支払利息	8,029	12,988
売上割引	57,076	65,967
持分法による投資損失	—	1,451
為替差損	—	23,387
その他	8,592	7,905
営業外費用合計	73,697	111,700
経常利益	2,187,766	2,659,930
特別利益		
固定資産売却益	2,179	669
特別利益合計	2,179	669
特別損失		
固定資産売却損	31	259
固定資産除却損	5,219	6,442
特別損失合計	5,251	6,702
税金等調整前四半期純利益	2,184,695	2,653,896
法人税、住民税及び事業税	681,028	895,339
法人税等調整額	146,339	△51,736
法人税等合計	827,368	843,603
少数株主損益調整前四半期純利益	1,357,326	1,810,292
少数株主利益	29,200	37,738
四半期純利益	1,328,126	1,772,554

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年2月1日 至 平成26年4月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,357,326	1,810,292
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	39,326	△228
為替換算調整勘定	1,331,056	△938,432
その他の包括利益合計	1,370,383	△938,661
四半期包括利益	2,727,710	871,631
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,610,641	843,354
少数株主に係る四半期包括利益	117,069	28,277

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第1四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	国内ベビ ー・ママ 事業	子育て支 援事業	ヘルスケ ア・介護 事業	海外 事業	中国事 業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	5,951,750	1,677,647	1,653,422	3,758,714	3,568,626	16,610,160	285,556	16,895,717	-	16,895,717
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	650,354	52,078	702,432	-	702,432	△702,432	-
計	5,951,750	1,677,647	1,653,422	4,409,068	3,620,704	17,312,593	285,556	17,598,150	△702,432	16,895,717
セグメント利益	785,913	23,544	85,221	931,477	954,217	2,780,375	33,838	2,814,214	△900,796	1,913,417

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に当社の生産子会社が、当社グループ外への製造販売を行っているものを含んでいます。
2. セグメント利益の調整額△900,796千円には、セグメント間取引消去△27,057千円、配賦不能営業費用△873,738千円が含まれています。配賦不能営業費用は、主に、当社の管理部門等に係る費用です。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年2月1日至平成26年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書計上額 (注)3
	国内ベビ ー・ママ 事業	子育て支 援事業	ヘルスケ ア・介護 事業	海外 事業	中国事 業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	6,057,765	1,708,026	1,786,123	4,354,780	4,610,426	18,517,122	342,033	18,859,156	-	18,859,156
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	788,973	198,743	987,717	-	987,717	△987,717	-
計	6,057,765	1,708,026	1,786,123	5,143,753	4,809,170	19,504,839	342,033	19,846,873	△987,717	18,859,156
セグメント利益	1,050,463	35,701	123,521	1,109,929	1,328,830	3,648,445	51,683	3,700,129	△1,016,390	2,683,738

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に当社の生産子会社が、当社グループ外への製造販売を行っているものを含んでいます。
2. セグメント利益の調整額△1,016,390千円には、セグメント間取引消去△34,062千円、配賦不能営業費用△982,327千円が含まれています。配賦不能営業費用は、主に、当社の管理部門等に係る費用です。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結累計期間より、「海外事業」に含めていました「中国事業」について重要性が増したため、区分し、報告セグメントを「国内ベビー・ママ事業」、「子育て支援事業」、「ヘルスケア・介護事業」、「海外事業」及び「中国事業」の5区分に変更しています。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 有形固定資産の減価償却方法の変更

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示に記載のとおり、当社および国内連結子会社は一部の有形固定資産の減価償却の方法を定率法から定額法に第1四半期連結会計期間より変更しています。

なお、これによるセグメント利益に対する影響額は「国内ベビー・ママ事業」17,756千円、「子育て支援事業」881千円、「ヘルスケア・介護事業」3,422千円、「海外事業」3,069千円、「その他」1,853千円及び「配賦不能営業費用」5,068千円の増加となっています。